

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年3月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、2/4のWTI原油は、先週比5.49ドル高の92.31ドルとなりました。3日、米中部・北東部は暴風雪に見舞われ大雪の影響でテキサス州とニューメキシコ州にまたがるパーミヤン盆地(米最大のシェールオイル・ガス産地)でのシェールオイル生産が停止すると警戒感が台頭しています。またロシアがウクライナに軍事侵攻すれば、有力産油国であるロシアからのエネルギー供給に支障が出る恐れがあるほか、OPECプラスが2日に追加増産を見送ったことも原油高騰の要因となっています。

●第2週、週末2/11のWTI原油は、先週比0.79ドル高の93.10ドルとなりました。国際エネルギー期間(IEA)は、2月の石油市場報告で、景気の力強い回復基調を理由に今年の石油需要予測を上方修正しました。一方、OPECプラスの増産余力は乏しく、1月は一部の国が生産目標を達成できなかったと指摘しました。需給逼迫懸念が強まり、ロシア軍がウクライナに侵攻する可能性が高まったとの報道がきっかけとなり、ロシアからのエネルギー供給が途絶えることへの警戒感が急速に広がり原油は買われました。

●第3週、週末2/18のWTI原油は、先週比2.03ドル安の91.07ドルとなりました。イラン核合意再建をめぐる交渉が大詰めを迎える中、イランに対する制裁が解除されれば、同国産の石油が市場に回帰すると思惑から、供給増を警戒した売りが継続しました。一方で、ウクライナ情勢の悪化懸念が引き続き相場を下支えています。

●第4週、週末2/25のWTI原油は、先週比0.52ドル高の91.59ドルとなりました。24日ロシア軍が、ウクライナへの本格侵攻を開始したことによりウクライナや黒海を経由して運ばれるロシア産原油の供給が混乱するとの懸念が台頭し約7年7カ月ぶりに100ドル台に上昇しました。しかしバイデン米大統領が戦略備蓄(SPR)の追加放出を検討していることや米高官が対ロシア経済制裁について、国際エネルギー市場に打撃を及ぼす意図はないとの説明をしたことなどが、供給逼迫への警戒感を和らげ相場は90ドル割れ目前まで値を戻しました。

	2月平均	WTI原油	91.63ドル	前月比	8.63ドル	為替 1ドル	116.22円	前月差	0.37円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
2/1~2/2	補助金-3.4含む	-0.9	補助金-3.4含む	-0.9
2/3~2/9	補助金-3.7含む	+1.2	補助金-3.7含む	+1.2
2/10~2/16	補助金-5.0含む	+0.7	補助金-5.0含む	+0.7
2/17~2/23	補助金-5.0含む	+1.0	補助金-5.0含む	+1.0
2/24~2/28	補助金-5.0含む	+1.0	補助金-5.0含む	+1.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年10-12月C重油決定価格	70,020	72,020	70,020(メニュー)+2,000(プレミアム)
	2022年1-3月C重油仮価格	72,190	74,190	72,190(メニュー)+2,000(プレミアム)
	2022年1-3月C重油決定価格 決定価格10-12月比			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油
	2021年10-12月C重油決定価格	76,000	81,700
	2022年1-3月C重油仮価格	79,400	
	2022年1-3月C重油決定価格 決定価格10-12月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	22/1	9桁速報	57,578	79.65	114.93	-1.413
	22/2	最終予測	62,155	86.08	114.80	4.577
	22/3	展望	67,028	93.47	114.00	4.873
	22/4	展望	69,317	97.09	113.50	2.289

【次世代エネルギー】< 褐炭から水素製造、日豪間で液体水素を輸送 >

オーストラリア・ビクトリア州ヘースティングス港に1月21日に到着した世界初の液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」が、水素を積み2月中旬に神戸港に帰還する予定です。「すいそ ふろんていあ」は、日本の企業連合が「日豪水素サプライチェーン(HESC)構築実証事業」の実証実験で利用します。HESC事業に参画する日本企業は、川崎重工、電源開発(Jパワー)、岩谷産業、丸紅、住友商事です。水素製造のおおまかな仕組みは、褐炭に少量の酸素を供給して蒸し焼きにし不完全燃焼にすると、褐炭は一酸化炭素(CO)と水素が主成分のガスに変わります。このガスから不純物を除き、さらに水蒸気と反応させると、今度はCO2と水素が主成分のガスになります。CO2を分離・回収すれば、高純度の水素が得られます。「すいそ ふろんていあ」は、マイナス253度に冷却し液化した水素を積載します。一方水素キャリアであるアンモニアは、水素よりもエネルギー密度が35%高く、液化温度もマイナス33度と比較的高いため 米調査会社S&Pグローバル・プラッツは、水素の代わりにアンモニアを輸送すれば輸送コストは低下すると指摘しています。ただそのためには、輸送元と輸送先にアンモニア製造や分解のための施設が必要になることが問題だとしています。オーストラリアのフィンケル前主席科学官は、自動車や電車の燃料として水素が利用される場合は、水素のまま輸送するのが合理的だとした上で、「アンモニアの輸送は非常に簡単のため、日本などが石炭火力発電を積極的に置き換えようとしている中で、発電用燃料として輸送するなら、アンモニアとしての輸送はメリットがある」との見方を示しています。 出典 ①

<https://news.yahoo.co.jp/articles/22eb21ed245780cc89be03ef19bc4893dd05d68d>

②<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/01936/00005/>

【3月価格変動要因】

●需要: 中国におけるゼロコロナ政策が緩和されることに伴って需要の回復が見込まれます。また英欧で進んでいるように米国でも各種コロナ規制が撤廃されれば更なる需要の拡大になる見通しです。ロシアへの制裁に絡んでロシア周辺国での需要減には注意が必要です。

●供給: ロシアがウクライナに侵攻したことで欧米各国や日本は、SWIFTから一部のロシアの銀行を排除する決定をしました。当初の想定よりも厳しい対応であり原油価格への影響も必至です。輸入代金の決済が滞れば供給に影響が及びかねません。またOPECは、計画通りの増産を進めていますが、実際の生産量は増えていません。

●在庫: 原油在庫は、低水準で推移していますが底打ちの兆しは見えています。暖房関連の需要が落ち着きを見せ増加しているリグ数が稼働するならば在庫の増加は見込まれます。ただしロシア関係の一件によって欧州からの米国産原油に対する引き合いが強くなると見られ思うように在庫が増加しない可能性もあります。

●リスク資産: FRBの利上げを控え、株価は調整が続きましたが、足元は引き続き買戻しも見られます。ロシアに関連したエネルギーコストの上昇によって実態経済が減速すれば米株など下落すると思われれます。ただし地政学を考慮してFRBが利上げの回数を減らすような発言があった場合はむしろ株高に触れる可能性はあります。

【3月価格変動要因】

(単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	120	117
Average	105	102
Low	90	87

日付	国	3月経済指標カレンダー	日付	国	3月経済指標カレンダー
1	米	2月ISM製造業景況指数	10	米	2月消費者物価指数(CPI)
2	欧	2月消費者物価指数(HICP、速報値)	16	米	2月小売売上高
2	米	2月ADP雇用統計	16	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
3	米	2月ISM非製造業景況指数	16	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
4	米	2月非農業部門雇用者数変化	17	欧	2月消費者物価指数(HICP、改定値)
4	米	2月失業率	23	米	新築住宅販売件数
4	米	2月平均時給	30	米	3月ADP雇用統計
8	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、確定値)	30	米	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
10	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	31	米	2月個人消費支出(CEデフレーター)
10	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。